

## 平成 31 年度第 1 回伊丹市環境審議会議事録

日時：令和 2 年 2 月 14 日（金）14 時 00 分～16 時 00 分

場所：伊丹市役所議会棟 3 階 議員総会室

### ・出席状況 15 名中 13 名出席

出席者 笠原会長、菊井副会長、塚口委員、常岡委員、宮川委員、服部委員、長谷川委員、植木委員  
宮脇委員、矢野委員、木下委員、辻野委員、高見委員

欠席者 中野委員、杉本委員

### ・傍聴者 1 名

### ・配布資料

資料：① 伊丹市環境審議会名簿（次第裏面）

② 伊丹市環境基本計画（第 3 次）の策定に向けて

③ 審議スケジュールについて

④ 伊丹市環境基本計画（第 2 次）の総括について

⑤ （仮称）伊丹市生物多様性みどりの基本計画 骨子（案）

⑥ [事前配布] 平成 30（2018）年度伊丹市環境基本計画（第 2 次）年次報告書

参考資料：⑦ 持続可能な開発目標（SDGs）の考え（国）

⑧ 第五次環境基本計画について（国）

⑨ 地域循環共生圏の概要について（国）

⑩ 第 5 次兵庫県環境基本計画について

手元資料：伊丹市環境基本計画（第 2 次）

伊丹市環境基本計画（第 2 次）中間改訂版

## 1. 開会（14：00）

### ・市長挨拶

・「伊丹市環境基本計画（第 3 次）の策定」に関し、市長より環境審議会に諮問

・事務局より、委員 15 名中 13 名が出席しており、伊丹市環境審議会等に関する条例に基づき、本審議会が成立していることを報告

・署名委員に木下委員、辻野委員を選任

## 2. 審議事項

### （1）伊丹市環境基本計画（第 3 次）の策定について（諮問）

[伊丹市環境基本計画（第 3 次）の策定に向けて について説明。（資料②）]

#### ○会長

先程の市長挨拶で、身近な伊丹市内の自然環境を取り戻すことと、地球温暖化対策など地球全体を考えた環境政策がこれまで以上に必要になることの 2 つの重要な話があった。第 3 次計画では、地球温暖化や生物多様性、さらに両方の分野に関係することとして循環型都市が重要であることから、重点環境分野として位置付けて取り組んでいくと説明があった。

第 2 次計画は 8 年前の平成 23 年に策定され、中間改訂版は 5 年経過した平成 28 年に見直しが行われている。第 3 次計画は計画期間としては 8 年か。

○事務局

第2次計画の計画期間が10年間であることに対して、次期計画である第3次計画が8年間とする説明としては、市長が変わると方針や計画が変わる可能性もあるので、市長の任期に合わせて4の倍数とした方が合理的に進められるとの考えからである。民間企業でも社長が変われば方針も変わることから、市長が変わればその方針に合わせて具体的な施策を練ることを考えている。

資料②の一番右の第2次計画の施策体系において、地球環境、循環型社会、生活環境の分野はどの都市でも取り組んでいかなければならないグローバルな分野、自然環境と都市環境の分野はいわゆる伊丹市ローカルな分野と考えている。それぞれの分野で進めていく施策を考えていきたい。

○委員

資料④の第2次計画の総括について、第2次計画は個別目標の中から重点プロジェクトが位置付けられている。第3次計画でも大体この考え方を引き継ぐと考えてよいか。

○事務局

その通りである。新しい概念があれば、その概念を取り入れなければならないと考えているが、第3次計画は第2次計画を基本的に踏襲したものを考えている。第1次計画や第2次計画ではスローガンのような計画や環境施策が多かったが、第2次計画の中間改訂の頃から、国が温室効果ガス排出量の具体的な削減目標を設定するようになったので、市も目標に合わせつつ、市域の実態にも即した計画を考えていきたい。実効性を求められる部分と、今までのスローガンの部分と、全く新しい概念の部分とをうまくミックスしていきたい。

○会長

資料④の第2次計画の総括を説明してもらい、施策の進捗状況や課題等を把握しながら、第3次計画の策定に向けて意見等をいただければと思う。

[伊丹市環境基本計画（第2次）の総括について（資料④）

- ①「地球温暖化対策」、③「環境教育・環境学習の推進」（P1）、④「廃棄物の減量化と再資源化の推進」、⑤「廃棄物の適正な処理」（P2）、⑧「公園とみどりの充実」、⑨「自然環境との共生」（P4）について説明。]

○会長

少し復習すると、第2次計画は8年前の平成23年に策定され、来年度で最終年度を迎える。資料②の一番右の「伊丹市環境基本計画（第2次）施策体系」で示されているように、計画の体系では5つの基本目標のもと、合計12の個別目標を設定している。資料④の総括の、第2次計画の成果、社会経済状況等の変化、問題点や課題を盛り込み、第2次計画を基に第3次計画を策定していくことになる。

○委員

資料⑥の年次報告書の12ページから15ページについて、例えば、①環境体験学習の年間実施回数や④こども文化科学館の利用者数、⑤環境ポスター・標語の応募数の実績値が減っている。子どもたちの教育で全体的に啓蒙が少なくなっているから、減っているのではないか。

○事務局

①環境体験学習の年間実施回数は、目標値に対して実績値は上回っている。学校現場では特に多様化と言われており、環境だけが主ではなくなっている。例えば、⑤環境ポスター・標語の応募数が減ったのは、選挙や他のテーマなどの選択肢が増えたためである。

○委員

私は昆陽里小学校地区の地域ビジョン策定に向けて、半年程関わっているが、環境に対して地域住民は興味を持っている。環境教育や環境体験学習について、地域で勉強させることができるのではと思う。

## ○事務局

ご指摘の通り、①環境体験学習の年間実施回数については、回数が減っているように見えることは事実である。また、指導要領等が変わる中で、学校で教えなければならないことが増えていることも事実である。ただ、環境は特別な分野で、子どもたちが本当の意味で大切さを学んで、将来につなげていくことは大切なことである。例えば、昆陽里小学校では田んぼや色んなところで沢山お世話になっており、特に環境教育では、地域の中で子どもたちは育ててもらっている。回数も大事だが、限られた時間の中での質をどう高めていくか、様々なポスターについてもどう質を高めていくか、どう意識を高めていくかという視点に変えなければならないところに来ていると思うので、内容の充実を図ることに努めていきたい。

## ○委員

資料④の2ページに、プラスチック製レジ袋の有料化とあるが、今マイクロプラスチックが問題になっている。具体的な例として、化粧品や塗料などにもマイクロプラスチックが含まれているが、食物連鎖の中で魚などを食べると人間の体内にもマイクロプラスチックが入ってきてしまう。東京経済大学の久保先生が、マイクロプラスチックがサンゴに及ぼす影響についても発表しているが、国はただプラスチック製レジ袋の有料化だけを進めるのではなく、もっと積極的に取り組んでほしいと思うし、伊丹市でも考えてほしい。

## ○会長

社会経済状況等の変化の中で、マイクロプラスチックの問題がここ数年の間に大きな課題となってきているので、第3次計画で取り組む課題として、今後審議を進めていく中で、意見をいただきたい。

この8年間が経過する中で、第2次計画に見落としや抜けがないかが一番大きな問題であり、第3次計画の策定に向けて考えていけたらと思う。

先程の市長挨拶や事務局の説明にもあったが、地球温暖化について想定以上に気候変動が進んでいるようにも思われるので、マイクロプラスチックの問題も含め、今までの取り組みだけでいいのか、あるいは市民にも厳しさを求めていくのか、伊丹市に限ったことではないが考えていかなければならない。

## ○委員

個別目標3の環境教育・環境学習の推進の、①環境体験学習の年間実施回数について、小学校3年生の環境体験学習を実施するためには、多くの指導者が必要になる。生物多様性の分野には、指導者の育成が書かれているが、環境教育・環境学習の分野にはあまり内容が書かれていない。1つ考えられることとして、伊丹市には生涯学習の中にも多くの講座があるが、講座自体は個人の教養を追及するものが多く、その講座で学んだことを子どもたちに返すようなシステムができていない。私も教育委員会にいるから分かるが、学校教育と生涯教育がうまく融合しておらず、分離している。生涯教育の中に学校教育の環境体験学習のための指導者養成を組み込んでいくようなシステムをつくらないと、環境体験学習の指導者がいない状況になるのではないかな。もう少し学校教育と生涯学習との連携が必要かなと思う。

## ○事務局

子どもへの教育の視点は多くあるが、指導者を養成して子どもに返す視点は弱いことは指摘の通りで、社会教育と学校教育のつながりの中で指導者を養成していくことも1つの視点として必要だと思う。それと、伊丹市では現在コミュニティスクールを始めており、学校運営の中に地域の方にも入っていただいている。教育課程を地域の方と一緒に考えて、地域に開かれた教育課程にも目を向けていかなければならないと考え進めているところである。教員自身がそのような環境にもっと子ども達を引っ張っていく力をつけることや、地域におられる環境に詳しい方々の力も借りていくことについて、視点に置いて進めていかなければいけないと思った。

○会長

本審議会で年次報告書が毎年報告されているが、報告書自体が非常に分かりやすく年々改良されている。この報告書も活用し、今回の総括表がまとめられている。これから1年間、数回にわたってこの審議会を開催し、今回の総括表などの資料を基に新たな計画案を作成し、その計画案に基づいて、次の8年間にどのような環境施策を進めていくかの議論を進めていくことになる。第1回目の今回は、環境基本計画がどのようなものか、審議会の中で何を議論するかを掴んでいただき、貴重な意見をいただければと思う。

○委員

現在の社会状況の大きな変化として、環境面では地球レベルでの環境問題が非常に大きな転換期を迎えている。この問題や人口減少の問題、子どもたちの教育の問題などは資料にも記載されている。一方で、現時点において環境面に直接大きく関わるかは分からないが、情報技術、AI、MaaS、IoTなども大きな変換点に直面している。特に踏み込む必要がないことかもしれないが、資料にはその視点がないので、検討してもよいと思った。

それからもう一点、中間見直しであれば今までの指標を踏襲すべきで、指標を見直すことは望ましくないが、新たな計画を策定するのであれば、勿論良い指標は踏襲したらよいが、指標を見直したらよいと思う。私は交通関係を専門としているので、交通分野について目についたのかもわからないが、例えば資料⑥の年次報告書の44ページ、個別目標12の交通ネットワークの充実及び道路の整備において、③主要な道路の整備率は都市計画道路の整備のような従来型のアウトプット指標となっている。他の指標は効果がどれだけ上がったか分かるようなアウトカム指標になっているかと思うが、この指標については予算をどの程度消化したか、どれだけモノを作ったかというアウトプット指標になっている。新しい計画を策定するのであれば、この指標はアウトカム指標に近いものに今後置き換えられないか、指標をもう一度検討してもよいと思った。

○事務局

指標の見直しについても考えており、次回以降の審議会で考えていきたい。また、現計画では基本目標は5つだが、次期計画は3つになるかもしれないし、新しく基本目標を増やすかもしれない。フラットな状態で今回の総括をしようと考えているので、いただいた意見から考えていきたい。

[審議スケジュールについて説明。(資料③)]

○会長

今後の全体のスケジュールについて、質問・意見等があればいただきたい。

○委員全員

異議なし。

(2) 自然環境に関する計画の改定について(中間報告)

[(仮称)伊丹市生物多様性みどりの基本計画 骨子(案)について説明。(資料⑤)]

○会長

みどり環境部会の部会長の委員より、補足説明があればお願いしたい。

○委員

伊丹は生物多様性地域戦略において、非常に早い段階から地域戦略を策定している。いつも誤解されることだが、生物多様性の戦略自体は、生物を守るためと捉われるが実はそうではなく、人間が生き伸びるためには他の生物を守らないと人間も生きていけないので策定されている。宝塚や三田などの自然が豊かなところは別に戦略がなくても何とかやっつけていけるのかもしれないが、伊丹の場合は自然が非常に少ない状況なので、伊丹こそ生物多様性地域戦略が必要であると考えている。

○委員

7 ページの市民意識調査の結果について、おそらく年に1回、定期的に調査されていると思うが、何人に調査を依頼して1,545人が回答しているのか。また、このような意識調査では若年層が中々答えてくれないと聞くが、年代別の回収率などの情報があれば教えていただきたい。

○事務局

おそらく市民を無作為抽出で3000人程度にアンケートを依頼して、その回答を基に解析している。手元に詳しい結果を持っていないが、一応年齢層ごとの解析なども加えている。市全体の様々な施策に質問が及ぶので、質問のボリュームも多く、質問の量は原課でも考えるよう言われているところではある。先程委員から意見があったように、アウトカム指標と考えると市民の満足度につながるのだから、直接意見が聞けるのは市民意識調査だと考えており、この調査結果を有効に活用していきたいと考えている。

○委員

貴重な結果だと思うが、この市民意識調査は毎年無作為に抽出しているのだから、毎年同じ人に調査しているわけではないのか。また、3,000人に調査しているのだから、回収率は5割を超えているのか。

○事務局

その通りである。小学校区ごとに結果を整理すると、地区ごとに若干考え方が違うところがあるのも事実である。

○委員

市民が回答した結果なので、説得力のある数字だと思う。

○委員

この骨子は我々市民が見る資料か。市民に見せる資料であれば、7ページに加重平均とあるが、分かりやすい値で示すべきではないか。加重平均とした理由はあるのか。

○事務局

骨子案については、環境審議会の下に設置しているみどり環境部会の委員の方々に審議していただくための資料として作成しており、最終的には冊子を作成する。7ページの項目については、市民意識調査の結果をそのまま載せている。

○委員

施策の満足度で、公園の整備については、加重平均では3.76、パーセンテージでは65.7と載っている。市民に見せるのであれば、パーセンテージの方が分かりやすいと思ったので、加重平均をどのような根拠で示されていたのか聞きたかった。

○事務局

毎年市民意識調査を実施し、結果は地区のブロックごとでも分析している。加重平均を使って統計的に分析しているが、市民が分かりにくいという意見は頂戴して、調査している原課に意見として伝えておく。

○委員

加重平均の3.76では低く、パーセンテージの65%であれば高いという印象を受けるので、数値の表し方を考えてもらいたい。

### 3. 報告事項

平成30(2018)年度伊丹市環境基本計画(第2次)年次報告書について

[平成30(2018)年度伊丹市環境基本計画(第2次)年次報告書(資料⑤)]

①「地球温暖化対策」(P4-5、P8-9)、④「廃棄物の減量化と再資源化の推進」(P16-17)、⑨「自然環境との共生」(P36-39)について説明。]

○会長

このような形で環境基本計画の進捗状況を常に把握している。質問・意見等があればいただきたい。

○委員全員

異議なし。

4. その他

5. 閉会 (16:00)

以上